

August 23, 2019

【前日の為替概況】ポンドドル、合意なき EU 離脱懸念後退で 1.2273ドルまで反発

22日のニューヨーク外国為替市場でドル円は反落。終値は106.44円と前営業日NY終値(106.62円)と比べて18銭程度のドル安水準。欧州市場では、韓国が日本との軍事情報協定破棄の方針を決定したと伝わり、東アジアの地政学リスクの高まりを懸念した円買い・ドル売りが優勢となり106.25円まで下落した。NY取引時間帯では米10年債利回りが1.6267%前後まで上昇したことで、106.64円付近まで反発。

8月米製造業PMI速報値が49.9と約10年ぶりに好況・不況の分かれ目となる50を下回り、8月米サービス部門PMI速報値や米総合PMI速報値も低調だったことで106.32円付近まで反落した。7月米景気先行指標総合指数は予想より強い内容となったものの、戻りは鈍かった。

ユーロドルは小幅続落。終値は1.1080ドルと前営業日NY終値(1.1085ドル)と比べて0.0005ドル程度のユーロ安水準。欧州市場では1.1113ドルの高値まで上昇後、1.1064ドルの安値まで反落したものの、NY取引時間帯では1.10ドル台後半での狭いレンジ取引に終始した。23日にパウエル米連邦準備理事会(FRB)議長の講演を控えて様子見姿勢が広がり、積極的な取引は手控えられた。

ユーロ円は反落。終値は117.94円と前営業日NY終値(118.18円)と比べて24銭程度のユーロ安水準。ポンドはしっかり。メルケル独首相が英国の欧州連合(EU)離脱の焦点であるアイルランド国境問題について、「離脱期限である10月末までに解決策を見出すことは可能」と述べ、マクロン仏大統領も「バックストップ条項は必須だが、30日以内に賢明な策を見出せる」と発言した。独仏首脳の前向きな姿勢を受けて、英国の「合意なき離脱」を巡る過度な警戒感が和らぎ、ポンドを買い戻す動きにつながった。ポンドドルは1.2273ドル、ポンド円は130.70円、ユーロポンドは0.9029ポンドまでポンド高に振れた。

【本日の東京為替見通し】ドル円、ジャクソンホールのパウエルFRB議長講演控え動意薄か

本日の東京市場のドル円は、本日23時のジャクソンホール会議でのパウエルFRB議長の講演を控えて動きづらい展開の中、第7回日米閣僚級通商協議に関するヘッドラインに警戒する展開が予想される。

第7回日米閣僚級通商協議では、9月の日米首脳会談での合意に向けた大詰めの議論が行われた模様で、ライトハイザー米通商代表部(USTR)代表や茂木経済財政相の発言に要警戒となる。

8時30分に発表される7月消費者物価指数(CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比+0.6%)、7月CPI(生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比+0.5%)が予想を下回った場合、9月18-19日の日銀金融政策決定会合での「イールドカーブ・コントロール(長短金利操作付き量的・質的金融緩和)」を巡る議論が活発化することが予想される。

ドル円のアストロロジー「月齢サイクル(新月のドル売り・満月のドル買い)」からは、8月1日(新月)にトランプ米大統領による対中制裁関税第4弾(3000億ドル・10%)の表明で109.32円の高値からドル売りとなり、15日の満月では、12日の安値105.05円で反発基調となっている。次の新月(8月30日)のドル売りでは、9月1日からの対中制裁関税第4弾の発動と中国による報復措置に要警戒となる。

本日23日は下弦の月で、満月の安値から新月の高値に向けた上昇途上となることで、パウエルFRB議長の講演に対しては、タカ派的な見解を警戒することになる。

ジャクソンホール会議のテーマは「金融政策の挑戦」で、パウエルFRB議長の講演は日本時間23時から始まるが、2018年の講演で「漸進的利上げ」を主張したタカ派から「予防的利下げ」を主張するハト派への転向が予想されている。トランプ米大統領による米連邦準備理事会(FRB)の金融政策への挑戦に対して、金融政策当局からの挑戦が示されるのか要注目か。

メインシナリオは、パウエルFRB議長が市場の利下げ期待(▲0.50-0.75%)を追認する、あるいは、トランプ米大統領の▲1.0%利下げ圧力に屈するパターンとなる。

リスクシナリオは、テーマ「金融政策の挑戦」に沿って、パウエルFRB議長がトランプ米大統領の利下げ圧力に挑戦するパターン、すなわち、利下げに対して忍耐強いスタンスで臨むとの表明、あるいは、利下げに言及なし、となるパターンに要警戒となる。

トランプ米大統領が2020年の米大統領選挙で再選された場合(2期目：2021年-2024年)、1期目の任期を全うする意向を示しているパウエルFRB議長(2018年2月-2022年2月)が2期目へ再任されないことはほぼ確実であり、利下げを継続して再選を援護射撃すべきか、利下げを休止してリセッション(景気後退)入りを待ち再選を妨害するのか、悩ましい難題となっている。

【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

<国内>

- 08:30 ☆ 7月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合、予想：前年比0.6%）
- 08:30 ☆ 7月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く、予想：前年比0.5%）

<海外>

- 07:45 ◎ 4-6月期ニュージーランド（NZ）小売売上高指数（予想：前期比0.3%）
- 14:00 ◎ 7月シンガポール消費者物価指数（CPI、予想：前年比0.5%）
- 20:00 ◎ 4-6月期メキシコ国内総生産（GDP）確定値（予想：前期比横ばい／前年同期比▲0.8%）
- 21:30 ◎ 6月カナダ小売売上高（予想：前月比▲0.1%／自動車を除く前月比横ばい）
- 23:00 ☆ パウエル米連邦準備理事会（FRB）議長、ジャクソンホール会議で講演
- 23:00 ☆ 7月米新築住宅販売件数（予想：前月比▲0.2%／64.9万件）
- 24日 先進7カ国（G7）首脳会議（仏ビアリッツ、26日まで）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

【前日までの要人発言】

22日 16:27 中国商務省

「米国による関税の影響は全体的に管理可能」
「トランプ大統領は香港は中国の一部と述べており、香港の件に干渉すべきではない」

22日 17:43 ザリフ・イラン外相

「イランは湾岸で戦争を始めるつもりはないが自分自身は守る」

22日 18:04 欧州連合(EU)高官

「貿易摩擦は世界経済の成長にとって1つの重要なリスクであると認識」
「G7サミットが貿易摩擦をある程度和らげることができるだろう」
「米欧の貿易関係に関する楽観的な見通しが描けるだろう」

22日 18:27 ジンガレッティ伊民主党(PD)党首

「新たな政権を組成に挑む準備はできている」

22日 18:47 韓国大統領府

「日韓の安全保障協力環境を日本は大きく変えた」
「日韓情報協定を更新せず」

22日 18:52 日本政府筋

「日韓情報保護協定の破棄は極めて遺憾」

22日 20:19 マクロン仏大統領

「合意なき英・欧州連合(EU)離脱はEUの選択ではないが、それに備える義務がある」
「30日以内に何らかの賢明な策を見い出せると自信」
「ジョンソン英首相との協議は建設的だった」
「英仏は英・EU間でBrexit合意のため9月末まで協議継続することで合意」

22日 20:25 ジョンソン英首相

「合意あり・なしにかかわらず、10月31日にEUを離脱する」
「英とEUは合意に至ることができると思う」
「昨日の独首相との会談で勇気づけられた」
「アイルランド国境問題を解決するために時間はある」

22日 20:38 欧州中央銀行(ECB)理事会議事要旨(7月24日-25日分)

「景気減速は予想よりも長引いている」

「製造業の弱さがサービス産業へ波及することを懸念」
「長期インフレ予測の低下が大きな懸念」
「緩和スタンスを長期間維持することで一致」
「利下げや新たな債券購入を含めた刺激策が必要な可能性」

22日 20:52 ジョージ米カンザスシティ連銀総裁

「消費者の信頼感は維持されている」
「企業は雇用者を求めており、賃金上昇を予想」
「金利は均衡、据え置きを望む」
「0%近傍の実質金利を維持へ」
「経済は下方リスクを吸収」
「金融政策は長期的な視点で遂行」
「現時点では米国がマイナス金利を取り入れるとは思えない」
「経済の下降シグナルは出ていない」

22日 21:56 メルケル独首相

「10月31日までにバックストップの解決策を見つけることができる」

22日 22:08 トランプ米大統領

「米国は独と競争をしているが、FRBはやるべきことをやっていない」
「FRBは競争において米国に不利な状況に追い込んでいる」
「経済は非常に好調」
「疑問なのはなぜ米国が独や他の国よりも金利を多く払わなくてはならないのか」
「変えるのは遅くではなく、早くすべき」
「米国は単に勝つだけではなく、大勝利すべき」

22日 23:11 ハーカー米フィラデルフィア連銀総裁

「FRBは米国にとって適切な行動を取る必要」
「金利は他の目標金利が大きく離れることは出来ない」
「さらなる緩和を予想せず」
「私は渋々利下げを支持した」
「米労働市場は力強く、インフレは緩やかに上昇」

22日 23:33 独連銀

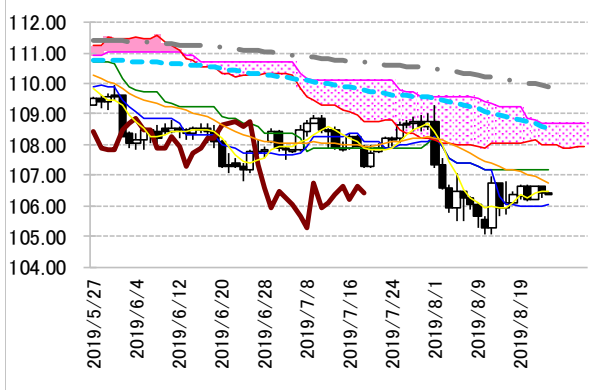
「現時点では財政出動は必要ないと考える」

23日 04:22 カプラン米ダラス連銀総裁

「リスクはダウンサイド」
「消費が強ければ強固な成長を予想」

※時間は日本時間

〔日足一目均衡表分析〕

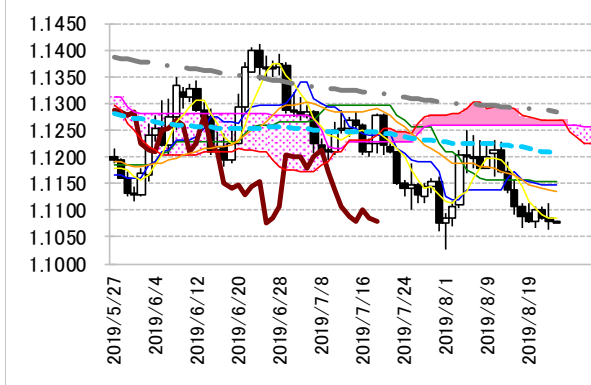


<ドル円＝転換線を支持に押し目買いスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。しかしながら「上昇三角形」を形成しており、反発の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を支持に押し目買いスタンスで臨み、同線を下回った場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	107.19(日足一目均衡表・基準線)
前日終値	106.44
サポート 1	106.03(日足一目均衡表・転換線)
サポート 2	105.66(8/14 安値)

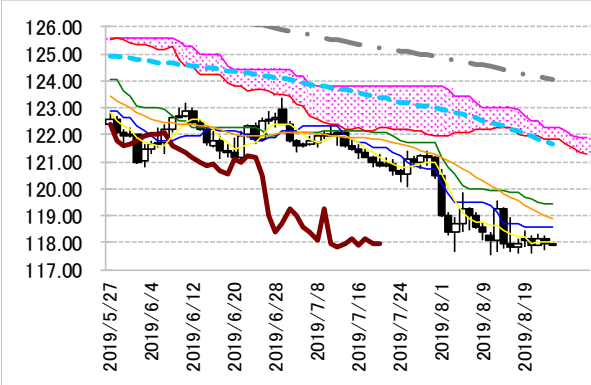


<ユーロドル＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。5手連続陰線の後、抱き線で反発、孕み線、2手連続陰線で反落しており、続落の可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	1.1146(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	1.1080
サポート 1	1.1027(8/1 安値)

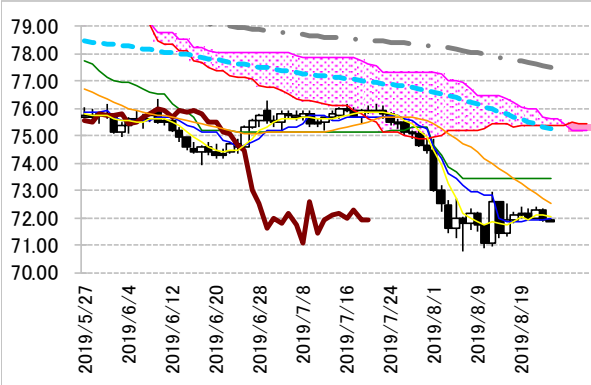


<ユーロ円＝転換線を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目均衡表・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲を下回っていることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。8月14日の陰線を埋め切れずに底値圏でのみみ合いが続いており、下落トレンドが再開する可能性が示唆されている。

本日は、転換線を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同線を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	118.59(日足一目均衡表・転換線)
前日終値	117.94
サポート 1	117.52(8/12 安値)



<豪ドル円＝13日高値を抵抗に戻り売りスタンス>

陰線引け。一目・転換線は一目・基準線を下回り、遅行スパンは実線を下回り、雲の下で推移していることで、三役逆転の強い売りシグナルが点灯している。13日の抱き線で反発、14日の孕み線で反落後、14日の陰線内でのみみ合いが続いており、下落トレンド再開の可能性が示唆されている。

本日は、13日高値を抵抗に戻り売りスタンスで臨み、同水準を上抜けた場合は手仕舞い。

レジスタンス 1	72.93(8/13 高値)
前日終値	71.91
サポート 1	70.75(8/7 安値)

